

## 版画と美術散歩

### 第2期 ピカソ《泣く女》と一凹版の小道

2026年9月12日（土）～10月18日（日）



①パブロ・ピカソ《泣く女》1937年 和歌山県立近代美術館蔵 © 2026 - Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN)

凹版とは、版に刻まれた溝にインクを詰め、紙に写し取る版画技法のひとつです。ドライポイント、エングレーヴィング、エッチング、アクアチント、メゾチントなどが代表的な手法で、硬質な金属の版に刻まれた線や点により、紙の上に浮かび上がる独特の表情を生み出します。ヨーロッパでは15世紀頃から銅版画が発展し、当初は絵画や図像の複製手段としての役割を担いましたが、やがて美術家による芸術表現へと変わっていきました。

本展では当館所蔵のピカソ《泣く女》を出発点に、西洋の凹版表現が日本にどのようにもたらされ、受け入れられ、深化していったかをたどります。

明治おわりの1910（明治43）年に創刊された文芸美術誌『白樺』などによる西洋美術の紹介を背景に、日本でも凹版への関心が高まります。大正期に入ると、寺崎武男や間部時雄ら、ヨーロッパへ渡り現地で学んだ美術家たちが凹版技法を国内に広めました。1918（大正7）年には日本創作版画協会が結成され、翌年には第1回展を開催し、作品発表の場も増えていきます。そして、1931（昭和6）年には西田武雄が日本エッチング研究所を設立し、国内でも技法を学び、研究し、制作する環境が整えられていきました。

フランスに渡りさまざまな凹版表現を追究した長谷川潔は、17世紀に発明されたマニエール・ノワール（一般にメゾチントと呼ばれる技法）を独自に発展させ、深い精神性を湛えた作品によって20世紀を代表する銅版画家のひとりとなりました。戦後、浜口陽三、駒井哲郎、浜田知明は、それぞれ黒から浮かび上がる色彩、夢幻の詩情、社会や人間へのまなざしを通して凹版の可能性を広げ、1950年代以降に世界各地で開催された国際版画ビエンナーレ展を舞台に国際的な評価を得ることになります。

西洋から伝えられた凹版技法が、日本でどのように受け取られ、学ばれ、独自の表現へと展開していったか、その歩みを見つめ直す機会となれば幸いです。

お問い合わせ先

和歌山県立近代美術館

学芸担当：田村允英 広報担当：村井

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上 1-4-14

T E L : 073-436-8690

F A X : 073-436-1337

E-MAIL : [press@momaw.jp](mailto:press@momaw.jp)

W E B : <https://www.momaw.jp>



WEB



Facebook



X



Instagram

## 開催概要

- 展覧会名** 版画と美術散歩 第2期 ピカソ《泣く女》と一凹版の小道  
**主催** 和歌山県立近代美術館  
**会場** 和歌山県立近代美術館 1階展示室  
**会期** 2026年9月12日(土)～10月18日(日)  
**開館時間** 9時30分～17時(入場は16時30分まで)  
**休館日** 月曜日(ただし9月21日、10月12日をのぞく)、9月24日(木)、10月13日(火)  
**観覧料** 一般400(300)円、大学生250(200)円  
 \* ( ) 内は20名以上の団体料金  
 \* 高校生以下、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は無料(障害者の方の介護者の方も無料になる場合があります) 詳細については当館ホームページをご覧ください  
 \* 9月26日(毎月第4土曜日)は、「紀陽文化財団の日」として大学生無料  
 \* 10月4日(毎月第1日曜日)は無料観覧日  
 \* 同時期に開催の「なつやすみの美術館 16 もしも“美術”がなかったら」鈴木崇 もののをかし チケットで本展観覧可能

## 主な出品作品

掲載用画像については広報担当にお問合わせください。  
文字のせ、トリミング等はご遠慮ください。



②



③



④



⑤



⑥



⑦

② マックス・クリンガー《『間奏曲』より 5 戦うケンタウロス》  
1881年 和歌山県立近代美術館蔵

③ フランシスコ・デ・ゴヤ  
《『ロス・カプリーチョス』より 26 彼女たちはもう席を持っている》  
刊行年不明(1799年初版刊行) 和歌山県立近代美術館蔵

④ 岸田劉生《『天地創造』より 欲望》  
1914年[1975年刷り] 和歌山県立近代美術館蔵

⑤ 寺崎武男《運河》制作年不詳 和歌山県立近代美術館蔵

⑥ 中井平三郎《版画誌『九州版画』第20号より 8 かみ切蟲》  
1939年 和歌山県立近代美術館蔵

⑦ 浜口陽三《『バリの屋根』1956年 和歌山県立近代美術館蔵

※①のピカソ作品の画像使用には、媒体ごとに別途使用料が発生します。使用料は各媒体社にてご負担ください。詳細はお問い合わせください。

※⑦の浜口陽三作品の提供画像は72dpiとなり、画像右下にウォーターマークが入ります。ウォーターマークの削除・改変はできません。

## 関連事業

### ▶ 担当学芸員によるレクチャー

日 時: 9月20日(日)、10月4日(日)  
各日14時～1時間程度

## 同時期に開催の展覧会

▶ なつやすみの美術館 16 もしも“美術”がなかったら  
～9月27日(日)

▶ MOMAW コレクション「絵画と彫刻」  
8月4日(火)～2027年1月11日(月・祝)  
第2期: 9月12日(土)～10月18日(日)

▶ 鈴木崇 もののをかし  
10月14日(水)～2027年2月11日(木・祝)

### ▶ 県立博物館(と)の展覧会

特別展 蘆雪生動 一南紀 無量寺への旅—  
～9月23日(水・祝)

企画展 くらひらく—博物館の蔵仕事事例集—  
10月10日(土)～12月6日(日)